

平成 25 年度教育学習支援検討特別委員会活動報告

I. 会議等の開催状況

(第 1 回)

日 時：平成 25 年 7 月 4 日（木）13:00～15:00

場 所：名古屋大学附属図書館大会議室（中央図書館 5 階）

議 題：

1. 平成 25 年度活動計画の進め方について
2. 小委員会の設置について
3. 今年度の開催日程について

(第 2 回)

日 時：平成 25 年 12 月 20 日（金）13:30～15:50

場 所：名古屋大学文学部 130 会議室

議 題：

1. 小委員会報告
2. 実践事例普遍化小委員会イベントの開催について
3. 情報リテラシー能力スタンダード骨子案について

(第 3 回)

日 時：平成 26 年 3 月 12 日（水）13:30～15:30

場 所：名古屋大学情報文化学部 215 室

議 題：

1. 事例報告会開催報告
2. 実践事例普遍化小委員会の今年度の活動まとめ及び来年度の活動計画について
3. 情報リテラシー教育検討小委員会の今年度の活動まとめ及び来年度の活動計画について
4. 今年度の活動報告について
5. 来年度の活動計画について

II. 活動内容

1. 平成 25 年度活動計画について

今年度は次の 2 点について取り組むこととし、それぞれ小委員会を設置して活動を行った。

(1) 教育課程と連携した教育学習支援の新たなニーズと方策の調査検討

実践事例普遍化小委員会を設置し、前年度の予備的調査を基に、ラーニング・コモンズの学習環境デザインに関する事例及び学内教育関連組織と連携した情報リテラシー教育に関する事例についての調査を 14 大学を対象として、10 月から 11 月にかけて実

施した。

(2) 情報リテラシー能力スタンダード及び情報リテラシー教育担当者育成のあり方についての検討

情報リテラシー教育検討小委員会を設置し、情報リテラシー能力スタンダードの国立大学図書館協会版試案の作成に向けて検討を行い、それを基に、情報リテラシー教育担当者育成のあり方についての検討を開始した。

2. 実践事例普遍化小委員会の活動

(1) 会議等の開催状況

第1回 平成25年9月9日(月) 於：筑波大学東京キャンパス文京校舎

第2回 平成26年1月27日(月) 於：筑波大学東京キャンパス文京校舎

(2) 事例調査の実施

・調査の目的

今後のラーニング・コモンズ事業(設備や活動等)や情報リテラシー教育など大学図書館における学習支援の展開へ参考となること、また広く適用できるような普遍化の条件を導き出すことを目的として調査を実施した。

・調査期間 平成25年10月～11月

・調査対象

昨年度予備調査として行った、国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会の委員館8大学(北海道大学、東北大学、筑波大学、お茶の水女子大学、静岡大学、金沢大学、名古屋大学、大阪大学)に未調査の委員館4大学(千葉大学、新潟大学、広島大学、九州大学)と新たに特徴ある2大学(同志社大学、国際基督教大学)を加え、合計14大学を対象とした。

・調査方法

国立12大学へは調査紙による記述式調査を行い、同志社大学及び国際基督教大学へは訪問調査を行った。

・調査結果

調査の中間まとめ等の資料は、事例報告会のページ(国大図協ホームページ→事業→講演会・セミナー等)にて公開している。

(3) 文献調査

前年度に行った文献調査を基に、ラーニング・コモンズに関する文献について、内容による分類を行った上で、必要に応じて文献に対するコメントを付与したリストを作成し、事例報告会で報告を行った。

(4) 事例報告会の開催

事例調査の中間報告として、教育学習支援検討特別委員会事例報告会を開催し、89

名の参加を得た。また、当日は、Ustream でのライブ配信を行い 162 名の視聴があった。

日時 平成 26 年 2 月 12 日（水）13:00～17:30

場所 筑波大学東京キャンパス文京校舎 134 講義室

・ラーニング・コモンズに関する文献調査報告

野村 正人（広島大学図書館図書学術情報普及グループリーダー）

・高等教育における情報リテラシー基準検討状況報告

鈴木 宏子（北海道大学附属図書館利用支援課長）

・北米の学習支援活動の考え方と実際—イリノイ大学から

Library Activities Beyond the Traditional Library Mission: New Learning Support Services

講師 リサ・ヒンチリフ氏（Lisa Janicke Hinchliffe）

Coordinator for Information Literacy Services and Instruction

Professor University Library University of Illinois at

Urbana-Champaign

・学修支援実践事例報告及び討議 — 図書館サービスの革新に向けて

千葉大学、お茶の水女子大学、新潟大学、名古屋大学、広島大学、国際基督教大学

事例報告会配付資料及び事例調査に関する資料は以下の URL にて公開。

<http://www.janul.jp/j/projects/sftl/seminar2013/seminar201401.html>

3. 情報リテラシー教育検討小委員会

(1) 会議等の開催状況

第 1 回 平成 25 年 9 月 11 日（水） 於：お茶の水女子大学附属図書館

第 2 回 平成 25 年 11 月 25 日（月） 於：筑波大学東京キャンパス文京校舎

第 3 回 平成 26 年 3 月 4 日（火） インターネット会議

(2) 情報リテラシー基準の検討

「高等教育のための情報リテラシー基準（ドラフト 2.3）」（別紙資料）を作成した。この基準では、6 つのフェーズからなる情報探索行動プロセスとして情報リテラシーを記述している。合わせて情報リテラシーの定義を行い、この基準の使い方を盛り込み活用への利便性を考慮している。来年度には、国立大学図書館協会会員館等への意見照会も予定している。

(3) 情報リテラシー教育担当者育成のあり方についての検討

上記基準の内容を踏まえて、学修支援及び情報リテラシー教育を担当する人材の育成を図るための方策について検討を開始した。来年度も引き続き、国立情報学研究所が開催する学術情報リテラシー教育担当者研修も含め、学修支援、情報リテラシー教

育を推進するために必要な人材の育成のあり方についての検討を行う。

Ⅲ. 委員構成

1. 教育学習支援検討特別委員会

委員長:	佐野 充	名古屋大学附属図書館長
委員:	鈴木 宏子	北海道大学附属図書館利用支援課長
	豊田 裕昭	東北大学附属図書館情報サービス課長
	内島 秀樹	筑波大学附属図書館情報管理課長
	杉田 茂樹	千葉大学附属図書館学術コンテンツ課長
	森 いづみ	お茶の水女子大学附属図書館図書・情報チームリーダー
	長谷川順子	新潟大学学術情報基盤機構附属図書館学術情報サービス課長
	村田 勝俊	金沢大学情報部情報サービス課長
	次良丸 章	静岡大学学術情報部図書館情報課長
	酒井 清彦	名古屋大学附属図書館事務部長
	星屋 真	大阪大学附属図書館利用支援課長
	野村 正人	広島大学図書館図書学術情報普及グループリーダー
	渡邊由紀子	九州大学附属図書館利用支援課長
事務:	岡部 幸祐	名古屋大学附属図書館情報サービス課長
	黒柳 裕子	名古屋大学附属図書館情報サービス課課長補佐

2. 実践事例普遍化小委員会

委員長:	内島 秀樹	筑波大学附属図書館情報管理課長
委員:	豊田 裕昭	東北大学附属図書館情報サービス課長
	杉田 茂樹	千葉大学附属図書館学術コンテンツ課長
	長谷川順子	新潟大学学術情報基盤機構附属図書館学術情報サービス課長
	村田 勝俊	金沢大学情報部情報サービス課長
	星屋 真	大阪大学附属図書館利用支援課長
	野村 正人	広島大学図書館図書学術情報普及グループリーダー
	渡邊由紀子	九州大学附属図書館利用支援課長

3. 情報リテラシー教育検討小委員会

委員長:	酒井 清彦	名古屋大学附属図書館事務部長
委員:	鈴木 宏子	北海道大学附属図書館利用支援課長
	森 いづみ	お茶の水女子大学附属図書館図書・情報チームリーダー
	次良丸 章	静岡大学学術情報部図書館情報課長
	野中 雄司	室蘭工業大学附属図書館学術情報ユニット
	村尾真由子	筑波大学附属図書館情報サービス課
	寺升 夕希	滋賀医科大学図書館

	馬場真紀子	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課支援チーム係長（教育研修事業担当）
アドバイザー	野末俊比古	青山学院大学教育人間学部准教授